

ORERO通信 No.43



たのみの綱がなければ、子どもも大人も
自殺へと進んでしまうことがある。(共感するということより)

KFS

KOBE FREE SCHOOL

共感する

ということ(2)

高知県土佐町での講演要旨

子どもの心の底からしほり出すような声に、じっと耳を傾けてくれる人がいたら、それだけで子どもは安心できます。子どもの話しぶり、雰囲気、空気が普段とはちがうなど感じたなら、手を止めて、できるだけ自然にじっと耳を傾けてほしい。夕食の時間が遅れるかもしれない。他の兄弟がむずがったり、不満をもらすかもしれない。でも今は何もかも打ち捨てて、じっと耳を傾けてほしい。そしてせかさないうで、冷静に「聞く」ことに熱中してほしい。たずねることはひかえめにして、話の腰を折らないで、しほり出すような小さな声に、耳を傾けてほしい。

本日は、こんなすてきな街に呼んでくださってありがとうございます。

子どもの教育については、専門家のみなさんが私ごとき素人同然の人間を招いて

くださって、本当に何かお役に立てるのか、実は心配です。ただ、みなさんと違うのは、毎日、不登校の子どもばかりと13年間かかわってきたことくらいです。

兵庫県では不登校が年々増加傾向にありますが、ここ中土佐町ではいかがでしょうか。

2年前、文部科学省は、小中学生の不登校生が14万人と発表。13年前、兵庫県の明石市でフリースクールをはじめたころはまだ、5万人に達していませんでした。ところがそれから、10万人以上増えたんですね。これは、嘆かわしいことでしょ

うか。子どもが学校をいやがるようになったのは、昔に比べて学校に、魅力がなくなつたからではないでしょうか。もしそうなら、そんな魅力のない学校にしまった大人たちが、反省しなければならぬでしょう。

私は、小学校4年生のとき、奈良県のいなかの親類に預けられていましたが、隣のクラスの永井という教師が、休み時間にバリカン

で散髪してくれました。ところが、もうすこしというところでチャイムが鳴り、「あとは次の休み時間や」と教師に言われ、僕はモヒカンのような頭のまま、教室に入つて授業を受けました。そんな和やかな空気が僕の小学校時代にはありませんでした。また、担任だった松本先生というおばさん先生を思い浮かべると、いつも笑顔で話しておられた姿が浮かびます。それがいつたいてい、どうなつてしまったのでしょうか。あんなに楽しかった教室は、この50年でどこに行つてしまったのでしょうか。

不登校は、子どもの問題ではありません。魅力の乏しい学校にしてしまった大人たちの責任であり、そのことを嘆くべきでしょう。不登校は家庭の問題でもありません。ある神経科医に「小さいころのスキンシップが、少し足りなかったのでは？」と言われた母親は、「ああ、もう手遅れだ」と感じたと話していました。そんなばかなことはない。子育ては失敗だらけで

す。乳ばなれや、トイレの訓練などがスムーズに行く子もいるし、遅い子もいます。それは、子育ての失敗ではなく、子どもの個性なのです。

不登校を、子どもや親など個人の問題としてとらえていたのは、15年ほど前の話で、それでは何も変わらないと文部省も気づいて、不登校はどの子にも起こりうる、と発表したのです。だれにでも起こるからといって、お父さんやお母さんがすぐに不安になることはありません。しかし予防策もありません。日常的な人間関係の中で起こってくることで、予測することはできません。ただ、不登校になつてしまったときに、親があわてないことです。いじめや体罰など、子ども一人で解決することができない事態に直面したとき、本能的というか、反射的に身を守る行動に出たわけですから、きわめて正常な反応なのです。中には子どもの反応を理解できず、パニックになる親がいます。が、そのことで一層、

子どもの不安や罪悪感を大きくしてしまうので、まず、親が腰を落ち着けて、出来るだけ冷静に子どもと向きあうことが必要です。今まで楽しく通っていた息子や娘が、急に登校しなくなっただけですから、よほどのことが起こっているのです。だからしっかりと受け止め、子どもの選択に共感する努力をしてほしいと思います。共感するとは、その行動を理解し、その生き方、その選択にエールを送ることです。ですから、指導したり、矯正したりすることではありません。この時代にあぐらをかいて、なに不自由なく生きていく人たちには理解できないことでしょう。なんの疑問も抱かずに学歴レースを駆け上ってきた人にはピンとこないかもしれません。ぼくは、自分の息子が小学4年生で登校拒否宣言をしたとき、ラッキーと思いました。それから10年間フリースクールと一緒にすごしてきましたが、その生き方に感動しています。不登校というのがこんなに楽しいものなのかと教えられ

てきました。みなさんにもできれば不登校に感動していただきたいと思います。不登校という選択は、自分を守るためには避けられない道なのです。心根の優しい子どもたちは、競い合い、傷つけあう醜い人間関係になんとかみんなと合わせようとするぎりぎりまで努力するのですが、最後にももうたびれて、からだも心も磨り減って、熱が出たり、腹痛を起こしたり、からだに「これ以上学校に行くな！」と命令するのです。子どもが行きたがらない、いやな場所に学校が変化してしまつたことに大人は気づくべきです。たかが学校と軽く言える大人が少なくとも、学校の存在が肥大化し、家庭も地域も学校依存症に侵され、教育に対する自由な発想が消えてしまつたように思います。「学校がだめならうちでなんとかしましょう。」とわが子の教育を引き受ける親であってほしい。

ここに土佐は、竜馬の故郷です。時代からはみ出した男が新しい時代を切り開いたように、大人たちには理解できない不登校生こそが、次の時代を開くことになるかもしれません。土佐の人は男も女も度胸があつて、太っ腹だと聞いております。だからたとえ自分の子どもが不登校になつたとしてもあわてたりすることはないでしょう。「たのみの綱」である親がどつしり構えてくれたら、子どものいのちは安全です。どつしり構えて、しっかりと子どもの声に耳を傾けてください。ていねいに子どもとの話を聞くことに慣れていない国民ですから、その訓練をしてください。(当日会場で、みなさんに1分間目を閉じていただき、自分の子どもの顔を思い浮かべて、口元に注目してください。ご無理申しました。)

う今日ここにお集まりのみなさんがその一点に取り組んでいただけたらと思います。※片道330キロ走行して神戸から中土佐まで行ってきました。おいしい鯉のたたきを目に浮かべながら、うきうきした気分です。中土佐町の教育委員会に到着。やさしい眼の教育長と超阪神タイガースファンの次長に面接間上がつていたら、そこへ教育長に信頼の厚い梅原さんが登場、この人がいなければ、この遠い土佐へ来るチャンスがなかったと思います。驚いたことに百人以上の先生たちがぎつしり講堂に集い、つたない小生の話にじつと耳を傾けてくださり、集会後も個人的にお話をする機会があり、その上二次会では心からの歓待を受け、忘れがたい交流の場を設けてくださり、ほんとうにありがたうございました。しかし、土佐の人はホンマに男も女も酒に強いのがわかりました。

追伸・・・これはあくまでも原稿で、当日原稿を見ないでしゃべり続けたため、ずいぶん脱線してしまつたことを、ここに

お詫びいたします。



「第2章」

大森 愛依

私が不登校になって5年目になる。舞台は、小学校から中学校になった。新しい家に引越して、おまけに引越したのでまた、新しい中学校へ通うことになった。（通うと言っても私りゆうだが）前の中学校は山の上にあった。今度の学校は、こうぎょうちたいの中にある海の側、担任は石田純一に似ている。得に困った事はないが、石田純一は、ちよつとシツコイかなあ。第2章になってもかわらないのは、フリースクール。フリースクールには、新しい仲間が増え初めている。10時になるとフリースクールに来る子がいる。先生が「メイの初めて来た時の事思いだすなあ」という。そう、第1章では、10時になるとフリースクールに到着してたのだ。初めて神戸みたいな都会にきて、目をパチクリさせていたのだ。なんだか懐かしい。まあ、

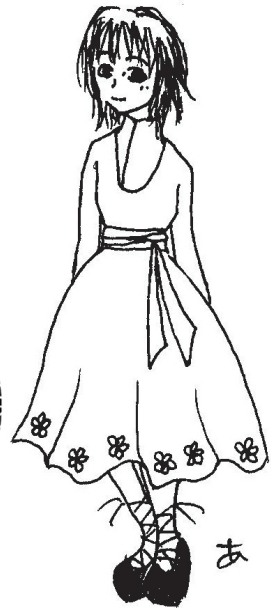
第2章の私は、おぼさんキヤラがみにやつき、ここでも自分流にやっている。ある日突然、お母さんが、「あんたは、ぶつぶつ文句いながら先生の話、信頼してるんやなあ」とええありえないと思いがらも、もしかしたらそうかもしれないなあと思う自分がいて、笑ってしまった。これからピースランにむけて暑い夏が始まる。一つ一つを重ねながら、いまだ体験しない未来を一つずつ体験していくのだろう。第2章は、書き終わるまでに、あと1年半残っている。今中学生は、進路の問題に悩んでいる。私はどうどうと「未定です」と言い切る。まああのんびり生きていく。でもこの時間を大切に生きていく。そして第3章つづく



星に願いを。

流れ星にお願いをしたらその夢はかなうという。
流星群なんか来ると、みんな願いをすると「ううなあ。でも、流れ星のホントの意味はそんなものじゃないと思う。流れ星って、あとも言えないうちに消えちゃう。とっぜん空に現れた光は次の瞬間自分の中にしか残らない。つまり、流れ星が光った瞬間、パッと願いをとが頭にうかんたらとだけ強くその夢を持っているのなら絶対かなうってコト。う〜ん…。うまく説明出来たのかなあ…。心配…。かなわない夢はないと思う。問題は途中であきらめないということだけ。う…こんな簡単に言っちゃってごめんなさい…。でも、これは自分に言い聞かせてること…。ふんて言うか…。その…まあ、そう言うことであす（ためたコリヤ）最後まで続いて下さってありがとうございます。

2003.06 香川あやこ



新年度を迎えて

T E R A

題名にはこう書いたものの、カレンダーはもう7月をめぐって8月に入ろうとしています。

その4ヶ月間、自分自身には色々なことがあったような無かったような……

というのも、まあ、はしょって書いてやうと、4月に予備校へ入学して、5月に予備校を辞めて、結局元の木阿弥なんていう現状にあったりするので(笑)

改めて現状を見直してみると、こうして今、空きスペースをこんな駄文で埋めているあたり、結局KFS出戻り男になっているわけです。

まあ、現状が変わってなかろうと、自分としてはそれなりに考えることがあって、まあ、その目標から、大学へ行くというプロセスを排除して頑張ろうと思っただけなのですよ。

思い起こせば俺がKFSへやって来てもうすぐ5年。その間に、色々な出会いや

別れがあつて、現在の自分があるのは(色んな意味で)KFSの皆のお陰だと思えます。

そろそろスペースも埋まつてきたというところで、結局今まで何度も書いたように「これからもヨロシク」という言葉で終わりにさせてもらおうと思います。

はじめまして、

わたるです。

昨年のメンタルフレンド養成講座に参加したのが、運のつき。いやいや、フリースクールに関われるようになった、大事な縁。その後、引きこもりをテーマにした映画『home』の自主上映のスタッフとなり、現在は、メンタルフレンド一期生として九月からの始動に向けて準備のお手伝い。普段は学校へ通いながら、学童保育スクールで指導員として、子どもたちにもて遊ばれ、ダメ出しされる日々。その為、なかなかフリースクールの子どもたちと接することができないのが残念！先生やちくりんに、

それぞれ子どもたちの話を聞いている。『どんな子なんやろう』と、会える日を想い描いています。

これからは、ちよこちよこ暇を見つけて、遊びに行きますんで、遊んでやってください。よろしく！

やわらかアタマ

ちくりん

にわかにフリースクールの存在がクローズアップされているようだ。学会に田辺先生が呼ばれたり、教育委員会の講演に招かれたり：子どもたちのことを真剣に考えようとしている大人たちが、やうつと少しずつ視野を広げ始めているのだろう。

ある学校の先生が話していた。学校にいくと、学校のことしかわからなくなるんよね。

学校の世界が全てであり、学校が大好きな先生にとつては、学校に行けない子どもを理解するのがことさら難しいらしい。「学校以外

になにがあるの？」そう思っても仕方のないことかもしれない。学校をフツーに通過してきた大人も同様である。けれど、そこから脱皮する発想を大人が持たなければ、と思う。かたいアタマではなかなか難しいこと。

田辺先生の話を聞いた人は、少なからずカルチャリシヨックを受ける。目からウロコってことかもしれない。不登校ってスゴイ！と今まで思ってもいなかったような感想をもらす人もいる。先生の話し方もおもしろい。やわらかすぎるアタマのせいか、話がクルクルと変わる。エンジンがかかったかと思うと、オーバーヒートすることもある。原稿があるようでない話しぶりに「またいい加減だなあ」と私は思いながら、でも会場のみなさんにはちょうどいい加減だと感じる。フリースクールは何年か前よりも、少し裾野を広げているように思える。学校に行けなくてもいい、誰もがそう納得できる日はもうすぐかも。

田辺先生との出会い

福田 五十鈴

「不登校って色に例えるって何色だと思いますか？ イメージする色のマジックを使って書いてみて下さい。」
 「生きる力って何が必要だと思いますか？ 書けた人から壁に貼っていきましよう。」と、このようにして（先生が講義をするというより）参加者に問いかけ、考えを引き出していくというスタイルで、田辺先生のセミナーは始まりました。
 わたしは、昨年三木市の子育てセミナーに参加していました。

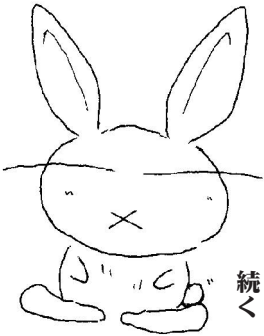
長女がLD (Learning Disability) の診断を受けたのは4年生の時でした。

学校への行きづらさを抱え、親も子も地獄のような日々が始まりました。行き渋る娘を、無理やり車に乗せて学校へ送ったことも、「今、学校で勉強しなくてどうするの?」と精神論を語ったことも、娘につらくあたった

ことも数知れずありました。中学1年の終わりにから適応教室へ通い始めました。子供が休むと親もひどく落ち込みました。子供が動かないと親は何かをする気力さえ失います。毎朝学校から（善意の介入）電話が鳴り響き、その電話もストレスになりました。この家族の危機に、父親も同様に力を落しました。そして彼も、長女につらくあたりました。次女に愛情を注ぐという形で長女への存在を無視し、期待を諦めようとなりました。モビールのようにながりを持った家族が、その家族を循環する空気の中で皆の気持ちに疲れ、病んでいました。

田辺先生に出会ったのはちょうどこの家庭の危機の時代で、長女が14歳の秋から冬の事です。

続く

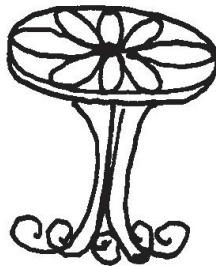


「音楽への思い」

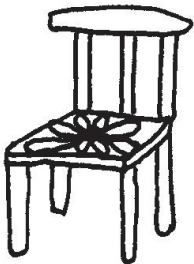
杉浦 昭代

子どものころから「音楽」が好きでした。
 レコードを聞いたり、歌を歌ったり・・・
 ピアノも習いましたが、先生との相性が良くなく残念ながら、あまりいい思い出はありません。
 12歳の時、お年玉をはたいてギターを買いました。
 （知る人ぞ知る、明石銀座通りニシキヤで）。20代半ばまでギターを弾かない日はなかったように思います。ちゃんとした練習というより、寝転んでおなかの上にのせて弾いたり、持ったまま寝たりしていました。いやな事があつた時、ポロンポロンと弾いていました。今もその98000円のギター、大事にとっています。

18才の時、クラシックギターにのめり込み、その結果、一生ギターと共に暮らす生活となりました（夫はギター弾きです）
 「音楽」が音を学ぶ「音楽



お



あたらしいスタッフ

の紹介

奥ちゃんです

奥野 江里子

わたしがはじめて神戸フリースクールを訪れ、田辺先生にお会いしたとき、先生は

「ここでは子どもはいいろいろと考えてますから、大人は全部をみられることになりますよ」

とおっしゃいました。わたしは「それはこわいな」と思いました。そこで正直に、

「自信ないです」

といったら、先生は、はははと笑って、

「それでは、子どもたちから学んでいってください」とおっしゃいました。そして、わたしはたよりないまま、神戸フリースクールに来させてもらうことになりました。

活動内容はシンプルだと思えます。けれども、それは簡単とか安易という意味ではありません。平日は部屋でおしやべりしたり、ゲームをしたり。テンポのよ

い会話が交わされて、わたしはかえってそれに臆したりしてしまいます。わたしはいままで、あんまり自然体でいたことがなかったのかなあ、と思います。淡路島の海で遊んだり、畑の手伝いをしたり。特別な技術はいらないけれど、ごまかしてはいけません。いまはまだじまつたばかりですが、徐々にわたしの外側を開けていたものがはらはらと落ちていって、わたしのごまかしぐせも、改善されていくといいなあと思っています。

キキちゃんです

小泉 貴姫

9月からスタッフとして仲間入りさせてもらう小泉貴姫です。フリースクールについて正直全くといって無知な私ですが、

ここへ来て皆が心から温かいなと思ったのと、一人一人、豊かで素敵な個性をもっているなと感じ、私もこの場で皆から色々刺激をもらいつつも皆のサポート

役になっていきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。

ふにふに

城間 雅之

僕とフリースクールの付き合いは8年。同時に高校生活も8年(謎)

息抜き合間の人生をやっているのノンビリマツタリな感じです。

今回スタッフとして加わり、お子達とたわむれちゃってます。

趣味はいろいろありまして、音楽、パソコン、バイクなどなど。

特技は誇張拡張したモノマネ。：似てなき過ぎなのもありますが(汗)

いつもテンションが高く、みんながダレるのですが、まあマイペースに今年一年を流れて行こうなんて思っています。

さて、この先私はどうなっていくのでしょうか。次回には続きません。

旧友再会

浅川 恭徳

「神戸フリースクール」の求人票を見たとき、旧冬夏舎にいささか縁のある僕はしみじみ感慨深い気分になった。知り合いのおじさんを久し振りに訪ねた。：ような感じの「面接」を経て、これから。すたつぷです。よろしく……。

「不登校」は、なる、ものじやなくて、やる、ものだと思ってます。学校より選択肢が多くて楽しいはずですよ。しっかりとやって下さい。



フィリピンの都市、マニラは自分的にあまり好きではない。
最初、フィリピンへ行ったとき、なぜこんな所に来たのだろうと思った。
空港を出て、一番はじめに思ったことがそんな感じで・・・。
でも、僕が行く所はマニラではなくフィリピンの北のほうの都市バギオで、
飛行機で50分、車で6、7時間のところにある。バギオは、思ったより美しい町だった。
そういう町に自分はもう3年近くもいる。
自分的には、かなり好きな町で、というのも好きなことがなんでもできるから。
自分が感じて思うバギオは、自由な町である。

That why I'm staying Baguio so long and will stay there 3 years more.
I just simply say I like Baguio this is the reason of why I'm there.

Takuya Hashimoto (17)

遊びの配達

不登校・ひきこもりの子どものもとへ“遊びの配達人”（メンタルフレンド）を9月から派遣しま～つす。

不登校の子どもたちのうち約5%が、適応指導教室あるいはうちのようなフリースクールに通える状態であるといわれています。じゃあ残りの95%は？…彼らはおうちの中にひっそりと身を隠すようにして、たったひとりで周りの目や孤独に耐えているのです。そんなまだまだ表には出るのがしんどい子どもたちのもとへ、私たちが訪問します。子どもたちの気持ちに寄り添い、彼／彼女たちの今の思いに共感しながら、一緒に時間をすごせたらいいなと思っています。自分のことを理解してくれるお兄さんやお姉さんと時間をすごすことで、「これでいいんだ!」と思える子どもたちが増えてくれたらいいなと思っています。不登校になってせっかく手に入れた自由な時間を楽しくすごすために、神戸フリースクールで訓練された(?)メンタルフレンドを利用してほしいと思っています。

また、メンタルフレンドになるための養成講座も10月から始めます。

興味のあるお兄さん・お姉さん、是非参加してくださいね。

お問い合わせは、不登校ネットワーク兵庫（TEL：078-366-0367）or 神戸フリースクールまでどうぞ。

☆第10回ピースラン 8/4 ～ 8/9

お知らせ

神戸・姫路・赤穂・倉敷・福山・三原・小佐木島。

約300キロを炎天下、今年も広島まで走ります。

- ☆今年度も県から委託を受けて「不登校キャラバン」を各地で実施します。ぜひご参加を!
- ☆オーレロ通信を定期的に発行したいので、みなさんからの原稿や情報をお待ちしています。
- ☆今年も淡路の岩城さんちの田んぼをお借りして田植えをしました。稲刈りまで順調に米が育ちますように。
- ☆子どもの教育や青少年活動を地道に続けているグループのホームページを立ち上げました。ぜひご覧下さい。HTTP://www.west-japan.net/gruppe/
- ☆多くの方々からオーレロ通信へのカンパをいただきました。ありがとうございます。
- ☆読後感などみなさまからのメールをお待ちしています。

HOME PAGE

発行/ 神戸フリースクール

WWW.FREESCHOOL.JP/KFS

お問い合わせ・TEL & FAX 078-366-0333

E-MAIL

住所・兵庫県神戸市中央区下山手通8丁目8-10

TOKASYA@HOTMAIL.COM